

No. 18 号

昭和 42 年

1 月 1 日

# あ ら や 衆 報

編集と発行 新屋振興会長 穂積 惇 印刷所 横山印刷所 (3) 2 4 4 2

あけまして  
おめでとう



## 年頭のあいさつ

秋 田 市 長

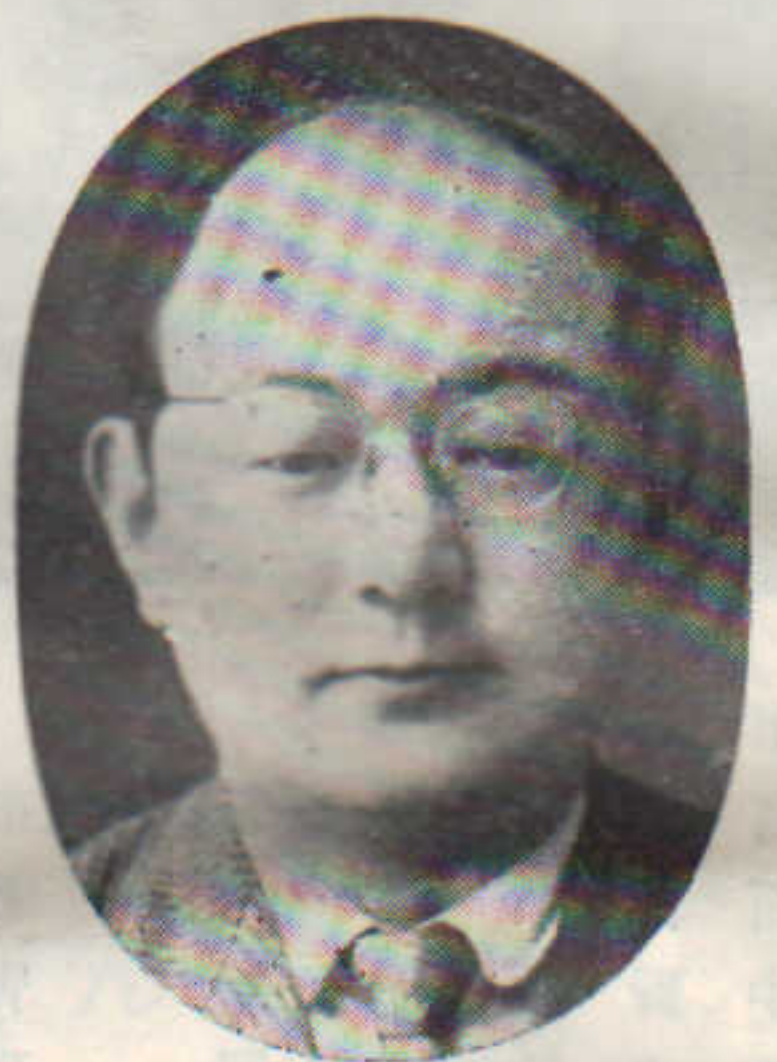
川 口 大 助

明るく、希望に満ちた新年と共に、今年も郷土が限りなく発展するものであります。秋田市は、みなさんの市



(大森山遠景と国見山ライン)

あけましておめでとう。この新年も皆様の御協力のおかげで、新年度も十八号を迎えることが出来た。これほどに、町内のみならず、ご指導の賜と存じ、深く感謝申し上げます。昨年中は、振興会も、おかげさまで、いろいろな点、特に上、下水道、測量、舗装など、大分成果をあげることができました。雄物新橋に電灯設置もできました。西部出身の議員をもって、西部議員団を結成し、当選後、浜田、下浜地区のみならず、協力し、西部地区の発展の展望に、たつて総合的に計画をたてるとともに、西部地区振興会連絡協議会とも、緊密な連絡をとりながら、歩みを進め、その実現化に努力して参りました。



## —地元の発展は

## 地元民の団結で—

新屋振興会々長

穂 積 惇

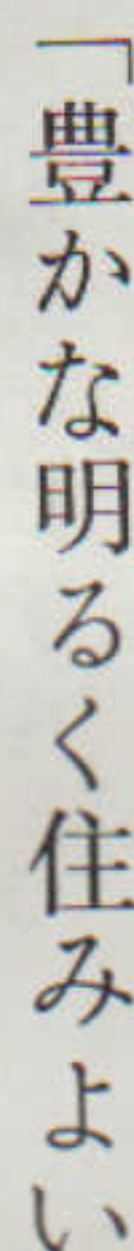
日本経済の不況下、県、市財政の困窮化のもとにありながら、わが新屋町、並びに西部地区は昭和四十一年度の県、市に対する要望事項のうち、その大部分について既に実現され、残りの部分についても着工されつつあることは、市長や議員の方々、各層の指導者、一般の市民の皆さんの賜と心から感謝申し上げる次第であります。新屋町の指定が一昨年十一月に本決りになって以来、大秋田市のベッドタウンとして、新しい住宅地がぞくぞくできつつある町として、また表通りにくわらば、まだまだ裏通りの整備は、おくれであります。本年こそ地味ではあるが、これら未解決の問題を解決すべき絶好の機会だと思っております。本年は衆議院の選挙や、四年に一回の統一地方選挙の行われる年であります。私たちは、新屋に住む住民として、私たちの町づくりに、国や県や市の金をうんと使ってもらって住みよい明るい町づくりをやってもらえないかと、直接的な成果をあげて、間接的な成果をあげることができると思っています。従来、新屋は他の地区に比べて、北部の地区とくらべて格段におとっており、このことは同じ税金を払っていた新屋町住民は損政に対する理解と協力により、幾多の大事業をなしとげ、めざましい躍進ぶりを見せております。みなさまご承知のように、秋田市はかねてより秋田県の県都として政治、経済、文化の中心都市であり、また、今や新産業都市として、国土開発の一翼をなす、わが国の中核都市として、重大な使命と責務を担つてまいりました。この使命達成こそ、今後の秋田市の前途があり前進があると考えるのであります。秋田市が近代都市としての

をしておいたということ、す。だから従来のみなさん、の不満は、大分なもので、私は、過去数年、微力ながら努力して参りました。本年こそ新屋町一帯、そして西部地区を全市、否、全県の立派な住みよいところにして、したいという決意をもちております。私たちは、次のことを県や市に、昭和四十二年度、予算化するよう要望書をとりまとめました。そして、これが実現のために、地元から多数の議員を送りだし、申請したいと心からお願ひ申しあがる次第であります。四年に一度の好機であり、四年前のあの地元の一致団結を再現して、現在以上の多数の地元議員をだすことこそ、地元の発展に直結する一番の近道だと信じています。一、県道割山地区の拡充に、二、県道割山地区の拡充に、三、県道割山地区の拡充に、四、県道割山地区の拡充に、五、県道割山地区の拡充に、六、県道割山地区の拡充に、七、県道割山地区の拡充に、八、県道割山地区の拡充に、九、県道割山地区の拡充に、十、県道割山地区の拡充に、十一、県道割山地区の拡充に、十二、県道割山地区の拡充に、十三、県道割山地区の拡充に、十四、県道割山地区の拡充に、十五、県道割山地区の拡充に、十六、県道割山地区の拡充に、十七、県道割山地区の拡充に、十八、県道割山地区の拡充に、十九、県道割山地区の拡充に、二十、県道割山地区の拡充に、二十一、県道割山地区の拡充に、二十二、県道割山地区の拡充に、二十三、県道割山地区の拡充に、二十四、県道割山地区の拡充に、二十五、県道割山地区の拡充に、二十六、県道割山地区の拡充に、二十七、県道割山地区の拡充に、二十八、県道割山地区の拡充に、二十九、県道割山地区の拡充に、三十、県道割山地区の拡充に、三十一、県道割山地区の拡充に、三十二、県道割山地区の拡充に、三十三、県道割山地区の拡充に、三十四、県道割山地区の拡充に、三十五、県道割山地区の拡充に、三十六、県道割山地区の拡充に、三十七、県道割山地区の拡充に、三十八、県道割山地区の拡充に、三十九、県道割山地区の拡充に、四十、県道割山地区の拡充に、四十一、県道割山地区の拡充に、四十二、県道割山地区の拡充に、四十三、県道割山地区の拡充に、四十四、県道割山地区の拡充に、四十五、県道割山地区の拡充に、四十六、県道割山地区の拡充に、四十七、県道割山地区の拡充に、四十八、県道割山地区の拡充に、四十九、県道割山地区の拡充に、五十、県道割山地区の拡充に、五十一、県道割山地区の拡充に、五十二、県道割山地区の拡充に、五十三、県道割山地区の拡充に、五十四、県道割山地区の拡充に、五十五、県道割山地区の拡充に、五十六、県道割山地区の拡充に、五十七、県道割山地区の拡充に、五十八、県道割山地区の拡充に、五十九、県道割山地区の拡充に、六十、県道割山地区の拡充に、六十一、県道割山地区の拡充に、六十二、県道割山地区の拡充に、六十三、県道割山地区の拡充に、六十四、県道割山地区の拡充に、六十五、県道割山地区の拡充に、六十六、県道割山地区の拡充に、六十七、県道割山地区の拡充に、六十八、県道割山地区の拡充に、六十九、県道割山地区の拡充に、七十、県道割山地区の拡充に、七十一、県道割山地区の拡充に、七十二、県道割山地区の拡充に、七十三、県道割山地区の拡充に、七十四、県道割山地区の拡充に、七十五、県道割山地区の拡充に、七十六、県道割山地区の拡充に、七十七、県道割山地区の拡充に、七十八、県道割山地区の拡充に、七十九、県道割山地区の拡充に、八十、県道割山地区の拡充に、八十一、県道割山地区の拡充に、八十二、県道割山地区の拡充に、八十三、県道割山地区の拡充に、八十四、県道割山地区の拡充に、八十五、県道割山地区の拡充に、八十六、県道割山地区の拡充に、八十七、県道割山地区の拡充に、八十八、県道割山地区の拡充に、八十九、県道割山地区の拡充に、九十、県道割山地区の拡充に、九十一、県道割山地区の拡充に、九十二、県道割山地区の拡充に、九十三、県道割山地区の拡充に、九十四、県道割山地区の拡充に、九十五、県道割山地区の拡充に、九十六、県道割山地区の拡充に、九十七、県道割山地区の拡充に、九十八、県道割山地区の拡充に、九十九、県道割山地区の拡充に、一百、県道割山地区の拡充に、

東北パルプ(株)秋田工場		秋田市西部振興会連絡協議会		秋田市西部議員団	
常務取締役 龍山 萬丈		会長 穂積 惇		一同	
秋田工場長		副会長 佐藤 芳太郎		一同	
理事 赤沼 辰夫		理事 川口 和夫		一同	
新屋振興会		新屋振興会		新屋振興会	
会長 穂積 惇		会長 穂積 惇		会長 穂積 惇	
副会長 佐藤 芳太郎		副会長 佐藤 芳太郎		副会長 佐藤 芳太郎	
理事 赤沼 辰夫		理事 赤沼 辰夫		理事 赤沼 辰夫	
理事 川口 和夫		理事 川口 和夫		理事 川口 和夫	
井配 達は		井配 達は		井配 達は	
食 堂		食 堂		食 堂	
衛生の新		衛生の新		衛生の新	



第 4 回 座 談 会



町づくり」……（地域一丸の協力）

市長 市民憲章は昭和三十六年に出来た。これは一昔し前で、今の私の理解のしかたが悪いのかわからないが、国体のとき、また昨年の防災訓練のときを見ますと新屋の人達はまとまりが良くて、しっかりしていた。それに婦人会は市政協力をつとめ、良くやってくれているので、今が「市民憲章」の再確認の時期だと云われて、実はびっくりしている。しかし反面

されておられる教養部長さんからお話しいただきたい。

石沢 去年の八月就任してから、三回の会合をもちましたが残念ながら出席者が少なかったことを反省している。新年への抱負としては、「明るく住みよい社会を作る」と云う意味で、この「市民憲章」は尊くも立派なものと思います。

しかし考えてみますと、この市民憲章を住民の全部に浸透してゆくことは非常に困難なことで、「市民憲章」でどう云うもので、どうしてやらなければ、いけないのか、またどうしてやっていったらいいのか、末端ではつかないのか、ではないか、と思いますので、他にもいろいろ問題はありますが、この基本的問題と取りくみ、再確認に重点をおきたい。

たい。しかし小人数の職場や日雇労働者が職場で受診されない方々がまだ相当おられるので、この問題が解決されないといふ結果は生れないと思います。

また成人病予防、ガンの早期発見、これも集団で検診すると非常に安い経費で受けられるので今年は是非これも取りあげて行きたい。それに献血運動など是非やらなければならぬことが多くさんあります。一度によくばらず、一つ一つ効果的にやって行きたい。

市長 各職場での受診率は非常にいいが、一般家庭での受診率は、大変に悪い。せっかく五百万円近い金を出して検診車を買っても、受診しなければ話しにならないので、私としては各町内にちよっとした広場のあつる処なら人数が少なくて

出かりで、やるようにされて  
ているので大いに活用して  
早期発見につとめて頂きたい、これも住民の理解と協  
力がなければなかなか完全  
実施は困難です。

司会 つぎに最近全国的な  
問題として取りあげられて  
いる交通事故対策等につい  
てですが、当地区からの一  
員として、県の交通指導  
をされている石黒与一は  
は非常によく活躍されて  
られるようです。しかし  
としても地域民の被害  
が事故防止に一番大切な事  
だと思っています。

年末を通じて車の往来が  
特に激しく、人出も多くな  
っている時期だけに交通安  
全部としては、この問題に  
取りくみ、さぞ大変なこと  
と思います、交通安全の高  
鳥さんどうぞ。

子どもを事故から守る母の会  
「一人も事故者を出さない」

「運転車友の会」

川	口	市	長
穂	積	振	興
川	口	同	副
佐	藤	同	副
(司會)		小	出
			支
			所
			長

憲章」をもう一度考えてみると云う皆さんの気持には感謝し、ありがたいと思います。

司会　ありがとうございます。した、つぎに保健部長さんにお願います。

藤沢　「健康で明るく正しい生活」をモットーとして婦人会が主体となつてやつております。

新屋の結核が非常に悪いことを知り、結核予防婦人会が二十六％の受診率から五十一％に引上げ、尚頑張つて第二検診の実施に踏まひ七十一％にしました。結核は老人結核に移向している、子や孫へ伝染する面がうれいられますので百％に近い受診率を目ざし頑張り

ては毎朝実施している、また春秋の交通安全旬間には町の協力を得て、危険箇所の調査と一般住民の認識向上につとめ、設備なり指導者の充実に力を入れたい。②については冬期にかぎったことではないが、先日冬期交通規制会議に出席した際、いろいろな問題が出されたが、当町としては栗田神社入口の十字路から海岸に向つて、大型車の通行禁止が行なわれること。それから道路を広く使うことに非協力的な処は交通規制をする側から最悪の手段として行つ、両側駐車禁止の措置、こうなりますと町の業者にとつては、非常に不便なことになります。

特に今年は目標の三点を重点的にやって行きたい。「一人も事故者を出さない」「子供を事故から守る母の会」「運転者友の会」育成。

司会 つぎに将来の発展を担う青少年の育成に頑張っておられる中野さんかちどうぞ。

中野 青少年育成部会では、明るい家庭づくりの座談会やよい社会環境づくりの体験発表会に人を送りたりしました。また数会部会を開き、今後の方針についていろいろ検討した訳ですが、小、中学校のP、T、A校外指導部と子供会育成

(事) 新屋元町一の二九  
TEL (2) 七八九一

(自) 新屋日吉町四の十五  
TEL (2) 三五〇二

加藤謙蔵











# 辻 永 佐 藤 治 氏 顕 彰 碑 建 立 に 想 う

川 口 弥 之 助

昭和四十一年十月三日、  
その日は秋雨に土がしっとりと引きしまり、鎮守の日の吉神社の森は静かな澄んだ空気に包まれていた。そしてわが郷土新屋町の近代における振興開発に偉大な功績を残された辻永佐藤治氏の顕彰碑が、全町民によってこの地に建立されたことは、まことに意義深く、最近にない町の快挙であったと思うのである。

また昭和十六年新屋、土崎、寺内の大秋田合併など、造成された埋立地なども、当初内務省案としては、茨島地区に限定されていたものだったが、その計画を変更させて新屋地区まで埋立てさせた苦心と努力は、まことに氏の遠見によるもの、新屋町の将来発展を遠くから顧慮されたお蔭であり、今更ながら敬服に堪えないところである。



私は先ずもって、この快挙を遂行された、町の発起人二百有余の方々、また世話人となられた方々に深甚なる謝意を表する。

辻永佐藤治氏は全く私心なく清廉な姿勢を堅持して、町政はもとより町の振興に献身なさったのである。しかも時勢の見極めと将来展望がきわめて正確であったことを感ずるのである。

雄物川改修工事によって、その裏面史を知るものには、全く辻永氏の信念と行動力がその主導権となつて、土崎、寺内をリードし合併の実現をみたのであつた。今日の大秋田合併の功績者としては、忘るゝことのできない人となつてゐるのである。

しかも合併に際して町民の遺産とした六十町歩の山林は現在日吉神社基本財産として、神社経営はもとより、教育、社会事業に大

共の師表と仰がれた。日吉神社の境内には、すでに森川源三郎翁顕彰碑が建立され、その喜慶精神に深い敬仰の念をもたれてゐる。今また辻永佐藤治氏の顕彰碑が生前に建立され、われわれに名刺を越えた愛郷の精神を学ぶ大きな道しるべとなつたことは、まことに郷土の誇りであると思ふのである。

願わくは、氏の長寿を心から念じ、長くわれわれの指導と鞭撻をたまわしてその功績は町民の等しく感謝敬仰する所なり、ここに新屋全町民により翁の顕彰碑を建立す。

昭和四十一年十月三日  
秋田市新屋町一同建書  
川口屋湖文佐藤秀湖書  
亀 朋 刻

## 新屋の町を語る

日新小六年生 渋谷 由美子

「新屋の人の歩いたところには草は生えない」といわれるほど、新屋の人は働きの者で有名だったと、母から聞ききました。

でも、父や母は純粋な新屋人ではありません。こゝで生まれ、育ったのは、姉と私だけです。

でも、母の言ったことばは、今の私にはよくわかりません。今までは新屋の人がそんな風に働きたるが、秋公園よりもすばらしい人々が花見に、集まるようになりまして。

そんな時考えることは、自然公園のことです。自然公園とは、めずらしい動物が自然のまま姿でいることができて、また四季の植物の花もさいているというふうな公園のことです。それが完成したらどんなにすばらしいことでしょう。

できたなら、そのおきに新屋の町を救った森川源三郎先生の博物館を建てたいと思います。

父の話によると、森川源三郎先生が使われた道具や

着物などがまだたくさん残っているのだそうです。それを博物館にかざり、新屋の町の苦しかった時代をどのようにして、のりこえたのかを町の人は、小さい時から知っていたらいいと思います。

どんなに進んだ住みよい町でも、苦勞された人々に感謝することは、必要だと思ひます。

私は人々に感謝することをおわすれて、不平をいってしまふことがありません。

新屋に生まれた私ですが、おまつりのときぐらいしか新屋の町を歩かないので、町のことは、よくわかりませんが、まづいふことが、ずいぶんかわつていふところがあると思います。

学校のうら山も、かけっこしたり、ころげまわったりしたころは、すっかりかわり、近代的なじゅうたんの立ちならぶ町にかわりました。

これからは新屋の町は、時代の波にのって、どんどん新しく変わっていくことと思ひます。

西中学校第二学年 本間 正 吾

私たちは、新屋に住む者としてこの町の発展を願ひ、そのために努力してゐるわけですが、実際に新屋はどのように発展させてゆくべきなのでしょう。

さて、新屋の発展は、どうして秋田市と切り離すことはできません。あくまでも、町内の他の地域と市の発展のために協力してゆかねばなりません。

しかし、その協力も新屋が他の地域に寄生し、自活できないようになつては、けつして、新屋の発展は、望めないでしょう。それで、この協力和自立とをどうに調和させていふか。そのためには、新屋の秋田市内で果す役目と、それを充分に果たすために必要な条件とを考えると、

新屋が住宅地域として発展しようとした場合、どのような問題が生じてくるのでしょうか。その中には、便利な商店街がない、ガスや下水道が不完全など、問題、また、市の中を流れる汚れた排水道、交通事故の危険のある道路など、多くの問題があります。そして、それらの物質的な問題は新屋が発展しようとする限り、つきることであるが、こういふことは努力によって解決できる問題でもあります。

しかし、これらの問題とは違い、物質的には解決できない精神面での問題があります。たとえば、新屋が住宅地となれば、あらゆる地方から人が集まり、住みつくことでしょう。そのとき、私たち新屋人は、新しく住みつけた人々を暖かく受け入れることができるでしょうか。また、新しい住民が親しめるような、精神面、物質面でのよい環境を私たちは持つてゐるのでしょうか。これらの問題の解決は、まだ不十分であり、私たちの心の奥には排他的な要素が多分に含まれてゐるのではないのでしょうか。もし私たちが、よそから来た人々の親しめる環境を整えなければ、新屋の発展は失なわれ、この町の発展は止まってしまうでしょう。

ですから、私たちは、新屋の発展を願うならば、まず自分の心の中にある排他的な要素を取り除き、親しみやすい人間になることが必要です。

新屋はけつしてかけ声や表面に現れる政策だけで、発展するものではない。私たち新屋人の心の持ち方により発展してゆくのではないのでしょうか。私たちは、新屋に住む者として、その発展を祈り努力してゆきたいと思ひます。



新屋表町

電(2)五二〇七



新屋元町

電(2)五二一七

純金入りデラックス清酒  
健康美容を促進する殿方ご婦人むき美酒  
御贈答No.1. 黄金井  
がね



群を抜くうまい酒

品質本位

電(3)一九〇七  
七九六二



新屋元町

電(2)五二一五

内科・小児科・レントゲン科

川 口 医 院  
院 長 川 口 新 助

新屋元町新屋郵便局向い  
TEL ③ 2 5 3 5



